

主要産地における令和元年産水稻の生育状況等について 第14報 (8月22日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和元年8月22日)

道府県	区分	生育状況等	技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体等公表資料の抜粋)
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全産) 生育は平年並に推移している。(北海道農政部 8月15日現在)</p> <p>(空知) 生育はやや進んでいる。(空知総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(石狩) 生育は平年並である。莖数が多く、出穂に時期を早めている。(石狩振興局 8月1日現在)</p> <p>(後志) 生育遅延日数は3日早い。(後志総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並みである。(日高振興局 8月15日現在)</p> <p>(渡島) 出穂及び開花期間は概同に経過し、全熟も順調。(渡島総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(樺山) 生育は平年並。(樺山振興局 8月15日現在)</p> <p>(上川) 生育の遅延は、平年並に推移している。(上川総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(留萌) 水稻の生育は、やや早く進んでいる。(留萌振興局 8月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年よりやや進んでいる。(オホーツク総合振興局 8月1日現在)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は日本海側と太平洋はほぼ平年並、オホーツク側は平年並か低い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>・向う1か月は北海道で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される(農林水産省 8月7日付)</p>
青森	(生育)	<p>・黒石「つがるロマン」の籾殻は、籾長、籾幅ともに平年より小さく、籾長×籾幅は平年比94%と平年より小さかった。「青天の霹靂」の籾殻は、籾長は平年より小さく、籾幅は平年並、籾長×籾幅は平年比96%と平年より小さかった。</p> <p>(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 8月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 東北地方の向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・向う1か月は北東で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される(農林水産省 8月7日付)</p>
岩手	(生育)	<p>(8月8日現在)</p> <p>・県全体で90%の水田で出穂たとみられる。地帯別の出穂割合は、北上川上流88%、北上川下流93%、東部79%、北部74%である。</p> <p>・県全体の出穂盛期は平年より1日早い8月4日頃、終期(90%出穂)は2日早い8月8日頃と推定される。(岩手県 8月9日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p> <p>・向う1か月は北東で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される(農林水産省 8月7日付)</p>
宮城	(生育)	<p>(8月8日現在)</p> <p>61.74ha(水稲作付見込面積の96.1%)で出穂が確認され、本年の穂揃期平年より3日早い8月7日となった。(宮城県 8月9日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p>
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 7月15日現在の生育は、草丈が60.9cm(平年比96%)、莖数が562本/m<sup>2</sup>(同比97%)、葉数が11.5葉(同差+0.3葉)、葉色値が41.2(同比102%)となっている。多くのほ場で幼穂形成期を迎えており、幼穂長からみた生育では平年より早く進んでいる。(8月1日付)</p> <p>(秋田) 管内で出穂期を迎えている。(8月2日付)</p> <p>(平鹿) 管内の水稻は出穂期を迎えている。(8月2日付)</p> <p>(白川) 出穂進捗は、出穂期(50%)は管内全体では平年比1日早い8月4日。(8月8日付)</p> <p>(鹿角) 7月25日の水稲定点生育調査では、草丈が64.5cm(平年比88%)で短く、m<sup>2</sup>当たり莖数は557本(平年比107%)で多く、葉数は12.1葉(平年差-0.1葉)、葉色はSPAD値36.1(平年比96%)で平年より濃くなっている。(8月2日付)</p> <p>(雄勝) 出穂が終期を迎えている。(8月9日付)</p> <p>(仙北) 7月25日現在の管内のあきたこまちの生育状況は、草丈が68.4cm(平年比93%)、葉数は566本/m<sup>2</sup>(平年比120%)、葉数は12.5葉(平年差+0.5葉)、葉緑素計値は36.6(平年差-1.4ポイント)となっている。(7月26日付)</p> <p>(山本) 7月25日現在の水稲定点調査(管内9地点、品種：あきたこまち)における生育状況は、草丈70.8cm(平年比95%)、葉数449本/m<sup>2</sup>(同比114%)、葉数12.4葉(同差+0.1)、葉色34.3(同比88%)となっている。(7月26日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>・季節予報(同上)</p> <p>・斑点米カメムシ類の水田内への侵入量が多い。 (秋田県病害虫防除所 8月19日付)</p>
山形	(生育)	<p>(生育概況)</p> <p>・農業総合センター(山形市みのりが丘)の「はえぬき」(5月20日移植)の出穂期は8月4日頃、水田農業試験場(鶴岡市華島)(5月10日移植)の出穂期は8月1日頃と予想されており、いずれも概ね平年並の見込み。早生品種は既に収穫期となっている。(山形おいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月30日)</p> <p>(東南村山)</p> <p>・出穂予想「はえぬき 8月6日」「つや姫 8月9日」「雪若丸 8月5日」(村山総合支庁農業技術普及課 7月30日)</p> <p>(最上)</p> <p>・7月19日現在、全般的に草丈が平年並からやや短く、莖数・葉色は概ね平年並。出穂期は平年並からやや遅れる見込みだが、一部の地域や品種では早まる傾向がある。生育は良好で、莖数が平年並みから多く、葉色は平年並みから濃い状況。出穂の時期は平年並の見込み。(最上総合支庁農業技術普及課 7月26日付)</p> <p>(鶴岡田川)</p> <p>・つや姫の作況の出穂期は8月7日で、平年より3日早まっている。(庄内総合支庁農業技術普及課 8月7日付)</p> <p>(北村山)</p> <p>・管内の出穂期は平年並み、中山間・山間部は2日程度遅れる見込み。(北村山農業技術普及課 7月24日付)</p>	<p>・季節予報(同上)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予想。 (山形県病害虫防除所 7月31日付)</p>
福島	(生育)	<p>(8月8日現在、農業総合センターの生育調査)</p> <p>出穂期は本部(郡山市)、浜地域研究所(相馬市)で平年よりやや遅く、会津地域研究所(会津坂下町)で平年並～やや早く進んでいる。 7月上旬の低温による不稔の発生や日照不足による病害虫の多発は見られていない。(福島県 8月8日付)</p> <p>(生育)</p> <p>福島県農業総合センター生育概況(7月24日現在 郡山市)(慣行栽培、5月15日移植)</p> <p>作柄解析試験の各品種の幼穂形成始期は、ひとめぼれ、天のつぶでは平年より5日遅い7月17日、コンヒカリでは平年より7日遅い7月26日、幼穂長から推定される出穂期は、ひとめぼれでは8月7日、天のつぶでは8月9日、コンヒカリでは8月18日。(郡山市 8月)</p>	<p>・季節予報(同上)</p>

	生育状況等	
茨城	<p>(水戸市 5月1日移植 8月9日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅速) あきたこまちは4日程度遅い。コシヒカリは6日程度遅い。ふくまるは5日程度遅い。</li> </ul> <p>(水戸市 5月10日移植 8月9日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅速) コシヒカリは4日程度遅い。</li> <li>(茨城県農業総合センター 8月13日付)</li> </ul> <p>(龍ヶ崎市 4月26日移植 8月5日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅速) あきたこまちは4日遅い。コシヒカリは8日遅い。ふくまるは7日遅い。</li> </ul> <p>(龍ヶ崎市 5月7日移植)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(対平年遅速) あきたこまちは8日遅い。コシヒカリは6日遅い。</li> <li>(茨城県農業総合センター 8月9日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う1か月は北関東で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
栃木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期は、平年より5日早いほ場から7日遅いほ場が見られ、ほ場によるバラツキが大きい。平均では平年より1日早かった。葉齢は、平年並で13.2葉で出穂を迎え、平年並であった。</li> <li>(栃木県 8月20日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は北関東で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
千葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月も低温、寡照が続いたため、全品種とも生育が遅れ、平年より出穂が3～4日程度遅くなっている。成熟期は4月20日播種の「ふさおとめ」が8月14日頃から、「ふさこがね」は8月19日頃から、「コシヒカリ」は8月26日頃からと予測される。また「コシヒカリ」は、出穂がバラつく場合があるので、成熟期の判定には注意が必要。</li> <li>(千葉県 7月25日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリの出穂期は、平年に比べ2日早い8月3日。出穂期の葉色及び稈長は、どちらも指標値(生育のめやす)並の状況。</li> <li>・こしいぶきの出穂期は、平年に比べ2日早い7月25日。</li> <li>・収穫適期が早まる見込み。</li> <li>(新潟県 8月21日付)</li> </ul> <p>(佐渡) 7月下旬から平年より高温で推移しているため、いずれの品種も平年より刈取適期は早まる見込み。 高温下での登熟となっており胴割粒や基部未熟粒の発生が多くなると予想される。 (佐渡農業普及指導センター 8月20日付)</p> <p>(岩船) 本年の出穂期は、平年に比べ早生は2日、コシヒカリも8月上旬の高温多照の影響で幼穂伸長期間が短縮して2～3日程度早まった。早生では登熟期前半が高温で推移し、胴割粒や白未熟粒の多発生が懸念される。(村上農業普及指導センター 8月10日付)</p> <p>(上越) コシヒカリの収穫適期の目安 (出穂) 8月1日頃(遊歩) 9月5日頃、8月4日頃=9月8日頃、8月6日頃(中山間) =9月17日頃、 8月15日頃(山間) =10月1日頃。 ・本年は出穂後の気温が高く推移しており、胴割粒や白未熟粒の増加が懸念されている。 (上越農業普及指導センター 8月21日付)</p> <p>(南魚沼) 早生品種は、出穂期後の高温傾向により登熟が早まっている。稲水分の低下が早く胴割粒や基部未熟粒等の発生が懸念される。(南魚沼農業普及指導センター 8月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う1か月は北陸で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
富山	<p>(本田での生育状況)</p> <p>てんたかく 5月8日移植の「てんたかく」の出穂期は、平年より1日早い7月20日頃と見込まれる。成熟期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より1日早い8月25日頃と見込まれる。出穂期は7月20日頃になると見込まれる。</p> <p>コシヒカリ 平年に比べて、草丈、葉色は並み、葉数はやや多く、葉齢は0.2葉少なくなっている。 幼穂形成期は、平年より2日早い7月10日となった。出穂期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より2日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>てんこもり 平年に比べて、草丈、葉齢、葉色は並み、葉数は多くなくなっている。幼穂形成期は、平年より4日早い7月10日となった。出穂期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より4日早い8月1日頃と見込まれる。</p> <p>富富富 前年に比べて、草丈、葉齢、葉色は並み、葉数はやや多くなくなっている。幼穂形成期は、前年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年並みに推移すると、出穂期は、前年並みの8月2日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県 農業技術課広域普及指導センター 7月17日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は北陸で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
石川	<p>(8月9日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早生は登熟後期、中生は登熟中期、晩生は登熟初期～中期となっている。</li> <li>(石川県農林総合研究センター 8月9日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は北陸で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
福井	<p>【農試における出穂期以降の積算気温に基づく収穫期予想】</p> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハナエチゼン (5月2日植) 出穂期7月17日</li> <li>・コシヒカリ (5月20日植) 出穂期8月2日</li> <li>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月9日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は北陸で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される (農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
長野	<p>(農業試験場八重森圃場 (標高348m))</p> <p>幼穂形成期は平年よりやや遅れた。6月中旬～7月中旬にかけて低温気味に推移した影響と考えられる。出穂期はいずれの品種も平年より3日遅れた。(長野県農業試験場 8月16日現在)</p> <p>(標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況)</p> <p>幼穂形成期はいずれの品種も低温、低日照により遅れたと考えられる。出穂期は「きらりん」、「ゆめしなの」で平年より3日遅く、「あきたこまち」で5日遅れた。 (長野県農業試験場 8月16日現在)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う1か月は甲信でいもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</li> </ul>

	生育状況等	
滋賀	<p>(農業技術振興センター 水稲作況調査 (7月20日時点))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年よりやや短い。</li> <li>・莖数は平年に比べ「みずかがみ」は14%、「コシヒカリ」は12%少ない。</li> <li>・葉色は平年よりやや濃く推移している。</li> <li>・「みずかがみ」の出穂期は7月23日で平年より1日遅かった。</li> </ul> <p>(滋賀県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側でほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並が少なく、太平洋側でほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う1か月は近畿でもち病、斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
兵庫	<p>(6月25日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県北 葉齢の進展は平年よりやや早い。草丈はやや短く、莖数は少ない。 遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈、莖数は平年並である。</li> <li>・県南 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並からやや低い。莖数は多い。</li> </ul> <p>(兵庫県 7月4日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は近畿でもち病と斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
岡山		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 中国地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月下旬～10月中旬のトビイロウンカの発生量は多い予報。 (岡山県病害虫防除所 8月21日付)</li> </ul>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年の早期水稲の出穂時期は平年並。成熟期については平年並かやや早まる可能性がある。 (平年の成熟期: 4月20日移植あきたこまち 8月10日頃、コシヒカリ8月15～16日頃)。</li> </ul> <p>(愛媛県 8月1日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 四国地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向う1か月は四国で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
高知	<p>(7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培の作柄はやや不良が見込まれる。(農林水産省 7月26日付)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期稲 穂生品種(南国そだち、よさ恋美人)の収穫がほぼ終了し、8月上旬よりコシヒカリの収穫が本格化する見込みであるが、登熟期の気温が低めだったことや、梅雨明けが遅れたことから平年よりも2～3日遅れる見込み。</li> <li>・普通稲 生育はおおむね順調で、出穂は8月中旬頃になる見込み。</li> </ul> <p>(高知県病害虫防除所 8月6日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節予報 (同上)</li> <li>・向う1か月は四国で斑点米カメムシ類の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</li> </ul>
福岡	<p>(農林業総合試験場における生育概況 7月25日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈 6月10日植「夢つくし」では平年より9%短く、その他の品種は3～7%長かった。</li> <li>・莖数 筑後分場の「ヒノヒカリ」では平年より5%多かったが、その他の品種は、2～19%少なかった。</li> <li>・主穂葉数 「夢つくし」では、平年より0.4葉少なく、生育は遅れているが、その他の品種は平年より0.2～0.4葉多く、生育はやや進んでいる。</li> </ul> <p>(福岡県農林総合試験場 7月25日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温はほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量はほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>

生育状況等	
熊本	<p>・季節予報（同上）</p> <p>・8月上旬に実施した調査によれば、早稲え及び普通期水稲におけるトイロウンカの発生量は平年より多く、防除が必要な場所が多くみられる。 （熊本県病害虫防除所 8月14日付）</p>
宮崎	<p>(7月15日現在)</p> <p>・早期栽培の作柄はやや不良が見込まれる。（農林水産省 7月26日付）</p> <p>(作物の生育状況) (7月中旬)</p> <p>・普通期水稲は分けつ期。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長 7月26日付）</p> <p>(生育・作柄)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 九州南部地方の向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込み。 （気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>・普通期水稲のトイロウンカの発生量が多い。 （宮崎県 8月19日付）</p>
鹿児島	<p>(7月15日現在)</p> <p>(作柄)</p> <p>・早期栽培の作柄は平年並が見込まれる。（農林水産省 7月26日付）</p> <p>・季節予報（同上）</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：前期からの更新箇所は赤字で示した。  
注3：令和元年8月22日14時40分時点での取り纏め。

参考・引用資料:

令和元年度産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月26日)、

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道 8月20日)、農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月20日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月20日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道石狩振興局 8月6日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月20日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月20日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月20日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山振興局 8月20日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月20日)、農作物生育状況調査の概要8月15日現在(北海道留萌振興局8月20日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月20日)、  
作況調査報告(稲穀調査)(地独青森県産業技術センター農林総合研究所 8月9日)、  
水稲の出穂状況(8月8日現在概況速報)(岩手県 8月9日)、  
令和元年度産水稲の出穂状況について(8月8日現在)(宮城県農政部みやぎ米推進課 8月9日)、  
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月9日)、  
米づくり技術情報No.12(やまがたおいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月30日)、  
つや姫だより第5号(庄内総合支庁農業技術普及課 8月7日)、  
おいしい米づくり情報第8号(村山総合支庁農業技術普及課 7月30日)、  
稲作だより第9号(最上総合支庁農業技術普及課 7月26日)、  
稲作だより第9号(北村山農業技術普及課 7月24日)、  
主要な農作物の生育情報令和元年度第5号(福島県農林水産部 8月8日現在)、  
「こおりやまの米」通信vol.6(郡山市 8月)、  
農研速報龍ヶ崎(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月9日)、  
農研速報水戸(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月13日)、  
令和元(2019)年度水稲生育診断予測事業速報No.7(栃木県 8月20日)、  
水稲の生育状況と当面の対策第6報(千葉県農林水産部 7月25日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第9号)(新潟県農林水産部 8月21日)、  
稲作生育速報No.10【特別号】(佐渡農業普及指導センター 8月20日)、  
令和元年度「上越米」栽培技術情報No.9(上越農業普及指導センター 8月21日)、  
岩船米づくり情報No.9(村上農業普及指導センター)、  
稲作情報No.9(南魚沼農業普及指導センター 8月20日)、  
TACS情報第8号(富山県農業技術課 7月17日)、  
稲作情報No.13(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月9日)、  
台風10号の接近に伴う被害防止及び高温に伴う農作物管理対策について(石川県農林総合研究センター 8月9日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(平成31年)(長野県農業試験場八重森圃場 8月16日現在)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(平成31年)(長野県農業試験場原村試験地 8月16日現在)、  
令和元年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、  
兵庫県農業気象技術情報第2号(7月情報)(兵庫県 7月4日)、  
気象情報に基づく技術対策(作物 8月)(愛媛県 8月1日)、  
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 8月6日)、  
福岡県米麦大豆生産改善速報第3号(福岡県ほか 7月25日)、  
平成31年度病害虫発生予報第4号について(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長 7月26日)、

令和元年度病害虫発生予報第6号の発表について(農林水産省 8月7日)、  
令和元年度農作物病害虫発生予察情報注意報第2号(秋田県病害虫防除所 8月19日)、  
令和元年度農作物有害動物植物発生予察情報注意報第5号(山形県病害虫防除所 7月31日)、  
令和元年度病害虫発生予察注意報第2号(岡山県 8月21日)、  
令和元年度病害虫発生予報第5号(熊本県病害虫防除所 8月1日)、  
令和元年度病害虫発生予察警報第1号(宮崎県 8月19日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(8月22日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(8月22日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(8月22日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(8月22日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(8月22日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(8月22日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(8月22日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(8月22日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(8月22日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月24日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月24日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月24日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月24日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月24日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月24日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月24日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月24日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月24日鹿児島地方気象台)、